いずみおおつ健康食育計画（案）に対する
パブリックコメントの結果について（報告）

1　募集期間　　令和元年12月19日（木）から令和2年1月9日（木）まで
2　提出方法　　郵送、ファクス、電子メールまたは健康づくり課（保健センター）へ持参
3　提出人数　　5人
4　提出件数　　8件
5　意見概要及び市の考え方

No	意見・提言の概要	市の考え方
1	**【いずみおおつ健康食育計画全般について】** ・健康泉大津21計画と食育推進計画が一体化されたことにより、市民にも理解しやすい計画になっている。 ・障がい児（者）にもわかりやすい食育や健康の推進を希望する。	・健康づくりと食育の3次計画となる本計画では、「健康」と「食育」のお互いの相乗効果が生み出されるよう一体的に策定し推進することとしています。 ・本計画では、すべての市民を対象としており、けんしん（健康状態を調べる「健診」と、特定の病気を早期発見する「検診」を総称）や健康相談、健康教育、関係機関との連携事業などにおいて市民一人ひとりの状況に配慮した健康づくり及び食育の支援に努めてまいります。
2	**【中学校給食について】** ・中学校の給食が開始し、大切な栄養補給ができるようになりよかった。今後、改良されることを望む。	・中学校給食は学校給食法等に基づき実施しています。限られた食材費の中で、栄養摂取基準を満たすとともに、効率よく栄養を摂取し、かつ、美味しい給食の提供に努めています。今後もより良い給食を提供するため、小中学校に配置された栄養教諭と教育政策課に配属された管理栄養士により、生徒の嗜好を考慮した調理法や献立の組み合わせの工夫など、毎月1回実施する献立検討会議の場において更なる

No	意見・提言の概要	市の考え方
		検討を加えております。今後も、生徒の健やかな成長をめざした給食の実施に努めてまいります。
3	**【がん検診・特定健康診査について】** ・がん検診と特定健診が同時に受診できるのは良い。若年の健康診査受診者数の増加を期待する。	・がん検診と特定健診の同時実施については、受診しやすい体制整備として継続して実施していきたいと考えています。また、ウェブけんしん予約システムの活用などで更なる体制の強化を図っていきます。若年（16歳から39歳）の健康診査については、保健センターなどで実施する集団健診に加え、市内の医療機関でも受診できる体制となっており、乳幼児健診の面談時に案内を配布するなど母子保健事業と連携した子育て世代への周知に引き続き取り組んでまいります。
4	**【歯科保健について】** ・壮年期・高齢期の歯科健診は必要で、歯槽膿漏や入れ歯のケアも必要と考える。	・歯の喪失や歯周疾患の予防には、毎日のセルフケアと定期的な歯科健診が重要なため、ブラッシング指導など口腔機能の維持に向けた取り組みや、かかりつけ歯科医を獲得し定期的な健診につながるよう成人歯科健診や在宅訪問歯科健診の周知に努めてまいります。
5	**【働く世代の健康づくりについて】** ・医療費をみると、全国・大阪府に比べて40歳代での費用は低いが、50～60歳代では大幅に高くなっている。40歳代の医療費が低いのは、企業の健康保険に加入している人が多い結果ではないか。	・医療費については全国・大阪府・泉大津市ともに市町村国民健康保険加入者の比較となっており、加入率に大きな差はみられませんでしたが、平成30年度の医療費を疾病別にみると、50～60歳代では、高血圧やその他の心疾患、脳梗塞などの循環器系の疾患、腎不全、気管・気管支及び肺の悪性新

No	意見・提言の概要	市の考え方
		生物（がん）についての一人当たり費用額が全国・大阪府と比較し高くなっていたことが影響していると推察されます。
6	**【健康や食に関する情報について】** ・健康や食に関する情報の入手は、広報紙50％前後、インターネットやSNSが30％となっている。広報紙とホームページを関連づけたり、QRコードを掲載するなど、いろいろなデバイスを連携させた周知を期待する。	・健康や食育に関する情報は、広報紙をはじめホームページや子育てアプリなどで発信しているところですが、入手媒体が多様化する中で必要な人に必要な情報が効果的に届くよう、ライフステージに応じた情報発信手段を工夫し、誰もが簡単に情報を取得できるよう取り組んでまいります。
7	**【要介護認定者数について】** ・要介護認定者数は年々増加傾向であり、区分内容も要介護度2以上の高齢者が増加し、介護サービスの内容、場所の提供などの充実が見込まれていると思うが、2018年以降要支援1が減少しているのはなぜか。判定する側の結果によるものか。	・要支援1の減少については、介護保険法の改正に伴い、平成29年度(2017年度)から開始しています介護予防・日常生活支援総合事業において、25項目の質問により高齢者の生活機能の状況を確認する基本チェックリストによる判定が始まりました。これにより、従来の要介護認定申請を行わず、基本チェックリストによる判定を受けた方の増加が、要支援1の減少の主な要因となっています。
8	**【あしゆびプロジェクトについて】** ・多年代にわたる健康サポートとして「あしゆびプロジェクト」が取り組まれている。プロジェクトを通じて、定期的な運動の重要性に関心が持てる企画をしてほしい。	・現在、健康に関するイベントやけんしん時のあしゆび力の測定、市内の公立幼稚園・保育所・認定こども園でのあしゆびを使った遊びや体操の実施、介護予防に取り組む高齢者の自主サークルにおけるあしゆび体幹体操などの実施や、親子で参加する運動教室など開催しています。また、市ホームページなどではあしゆびセルフケアパンフレッ

No	意見・提言の概要	市の考え方
		トやおづみんあしゆび体操（動画）を発信しています。今後も、市民の皆さまの関心を高め健康な身体の土台作りにつながるよう取り組んでまいります。